

令和2年度認定薬局整備支援事業中間報告書

都道府県名	宮城県
事業担当者の氏名	木村 由理
連絡先（電話）	022-211-2653
メールアドレス	yakumu@pref.miyagi.lg.jp

事業実施名	認定薬局制度の運用に向けた多職種ワーキンググループによる検討と認定薬局薬剤師養成プログラムの策定
-------	--

記載欄の大きさは、適宜調整してください。

事業目的、事業内容
<p><事業目的></p> <p>(1) 令和3年8月1日施行となる認定薬局制度における、宮城県独自の認定要件付与に関する検討を行うもの。</p> <p>さらに、当事業の結果を踏まえ宮城県地域医療計画の具体化、充実化につなげること。</p> <p>(2) 特に、専門医療機関連携薬局に求められる薬剤師の養成と、資質の維持・向上を目指すもの。</p> <p>(3) 医療における患者情報の取扱いについて、その在り方の提言を行うもの。</p> <p>(4) 令和元年度地域における薬剤師・薬局の機能強化及び調査・検討事業において、県内薬局を対象に実施したアンケート結果等で明らかとなった、地域における課題解決に資すること。</p> <p><事業内容></p> <p>(1) ワーキンググループの設立【実施主体：（一社）宮城県病院薬剤師会】</p> <p>一般社団法人宮城県病院薬剤師会及び東北大学病院等の多職種（医師、薬剤師、看護師、介護士、医療ソーシャルワーカー等）医療従事者を構成員とするワーキンググループを発足し、以下について、地域における課題の分析、制度設計、県独自認定における検討を行う。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、基本的に開催形式はオンライン会議とする。</p> <p>① 認定薬局薬剤師向けの医療機関での実地研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局において業務を行う、認定要件を満たす薬剤師（以下「認定薬局薬剤師」という。）を、計画的かつ継続的に養成するための研修プログラムを策定する。 県内の薬局薬剤師に対して研修プログラム参加を広く募り、研修を実施する。受講者には受講証を交付する。 <p>② 医療現場における患者情報の共有に係る在り方の検討</p> <p>連携機関同士で、迅速かつ効率的に患者情報を共有するため、入院時、退院時の患者の医療情報（例えば、複数の医療機関により発行された処方箋をもとにかかりつけ薬剤師が一元管理した薬歴や服薬情報、アドヒアランスに関する情報、アレルギー等の副作用関連情報等）を活用する仕組みを構築する。これらの情報共有は（4）で述べるポリファーマシー対策にも有効であり、減薬の機会は入院時のみならず、入院中に開始した服薬調整の退院後の継続が重要な鍵となる。こうした取り組みを通して、現場で生じている課題を分</p>

析し、その解決策について取りまとめる。

(2) 医療連携研修会の実施【実施主体：(一社)宮城県病院薬剤師会】

- ・ (1)のワーキンググループで策定したプログラムにより、(一社)宮城県病院薬剤師会が中心となって、医療機関間(薬局を含む)や多職種間の連携強化に関する企画を中心とした研修会(以下「医療連携研修会」)を開催し、県内から広く受講者を募ることとする。また、受講者には受講証を交付する。
- ・ 専門医療機関連携薬局に関する研修会については、傷病の区分をがんと想定し実施する。
- ・ 研修受講者に対しアンケートを実施し、その効果を測定するとともに、次年度以降の研修プログラム案の改善を図る。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、実地及びオンラインによる研修を並行して行い、「3つの密」を避けるとともに、薬局薬剤師が参加しやすいよう配慮する。また、実地による研修の際は、適切な感染症防止策を講じた上で実施する。

(3) がん患者のフォローアップ体制の強化【実施主体：(一社)宮城県病院薬剤師会】

- ・ 抗悪性腫瘍薬を投与している患者を対象に、治療歴、治療方針や患者への指導内容について関係機関相互の連携を強化する。(2)の医療連携研修会により薬局薬剤師が担うべき副作用等のフォローアップ体制の強化を図る。
- ・ 医療機関及び薬局における情報共有ツール(トレーシングレポートや治療手帳等)の作成と最適化を図り、その効果を評価する。
- ・ トレーシングレポートの件数や治療手帳の利用率等関係機関に対しアンケート調査を実施し、その効果を測定する。

(4) ポリファーマシーへの対応【実施主体：(一社)宮城県病院薬剤師会】

- ・ 複数の疾患を抱え多剤を処方される高齢者を対象に、ポリファーマシーの事例を抽出し、薬薬及び多職種連携による対策を実施する
- ・ 対象事例の抽出に当たっては、医療機関、薬局、東北大学病院による協議で決定する。
- ・ 入退院を含め、医療機関と薬局がシームレスに連携してポリファーマシーに対応する仕組みを構築するとともに、医療機関及び薬局における情報共有ツールの作成及びモデル的に運用を実施し、その効果を検証する。
- ・ トレーシングレポートの件数やポリファーマシー対策の実施件数等で取り組みを評価するとともに、対象者及び関係機関に対しアンケートを実施し、その効果を測定の上、更なる最適化を図る。

(5) MMWINの利用促進【実施主体：(一社)宮城県病院薬剤師会】

診療情報や投薬計画を、医療機関と薬局又は複数の薬局間で共有することで、成分又は薬効重複の有無の確認や、共有情報を活用して薬局における健康管理機能の強化を図ることが可能となることから、ICTを活用したMMWINの利用促進等を図る。

① 認定薬局における県独自要件に係る検討

(2)の研修会プログラムに、MMWINの概要と登録から活用までに関する内容を含める。さらに、認定薬局の認定要件にMMWINの登録施設であることを位置付けることを検討する。

② MMWINに係る好事例を取りまとめ、薬局、医療機関に対し周知を行う。

③ 県民への広報・啓発

イベント等において、かかりつけ薬剤師・薬局の観点から積極的にMMWINの有用性について啓発を行う。

(6) 啓発，広報【実施主体：①宮城県，②（一社）宮城県病院薬剤師会】

- ① イベント等で，県民にかかりつけ薬剤師・薬局や認定薬局制度に係る周知，啓発を行うとともに，宮城県ホームページ及び県広報誌等で当事業の取組について広報する。
- ② 県民向けにこうした医療従事者による取組に関するアンケートを実施することで，認定薬局制度やかかりつけ薬剤師・薬局制度の普及を図る。

都道府県内での事業の実施（取組）状況

(1) 一① 認定薬局薬剤師向けの医療機関での実地研修について

日本医療薬学会及び日本臨床腫瘍薬学会が提示する認定薬局の研修の概要について把握し，それを包含した研修プログラム案を構築した。各学会の認定薬局向けの研修が次年度開始となるため，今年度は，12月中旬から保険薬局薬剤師数名の研修を受け入れ，構築した研修プログラムのブラッシュアップを図る。なお，Covid-19による院内の研修受け入れ態勢の変化も考慮し，Webでのカンファレンス参加も予定している。

(1) 一② 医療現場における患者情報の共有に係る在り方の検討

入院時及び退院時の情報連携について運用案を検討している。なお，トレーシングレポート，お薬手帳，治療手帳，薬剤師サマリ等が連携ツールとして活用されており，それらを活用した連携方法の拡充に加え，MMWINを活用した連携の在り方についても検討する。

具体的にはMMWIN 端末に AccessRuntime をインストールし，Access を用いたアプリの開発と配信をすることを決定した。今後，本アプリを用いて，トレーシングレポートの作成補助や入院時の情報連携を実施し，MMWIN への電子レポートの登録と共有について仕組みづくりを行う。

なお，MMWIN 端末に限らず汎用的な Windows 端末で利用可能なアプリを開発する。

(2) 医療連携研修会の実施

医療連携研修会については，本事業に関連するテーマを取り上げ，研修会を開催し，アンケート調査を実施する予定である。特にCovid-19により，実地での開催は困難であり，Web講演会の実施を予定している。

なお，本事業に関するテーマについては，各種団体が開催する研修会等も活用し，本事業への理解と保険薬局と病院の連携強化に向けての広報活動に努めている。

(3) がん患者のフォローアップ体制の強化

がん患者のフォローアップ体制の強化に向けたモデルを構築し，病院の連携充実加算，保険薬局の特定薬剤管理指導加算2の要件も包含した。

東北大学病院では，令和2年9月より本モデルについて東北大学病院薬剤部のHPに掲示し運用を開始した。併せて，運用開始にあたり，宮城県の全薬局を対象としてWeb説明会を開催し，67薬局74人の薬剤師が参加し，宮城県全体でがん患者のフォローアップ体制の強化について理解を深めた。

(4) ポリファーマシーへの対応

ポリファーマシーに関するモデルを構築し、まずは、東北大学病院で具体的な運用フローを検討している。

65歳以上10種類以上の入院患者に対し、院内で東大式のテンプレートを利用してポリファーマシーを評価し、一部の診療科で多職種での検討を実施した。さらに、入院中に服用薬の変更があった場合には、薬剤師サマリを作成し保険薬局との共有を開始した。

これにより、保険薬局で入院中に変更になった薬剤の状況や背景が確認できるようになった。

なお、急性期病院におけるポリファーマシー対策は、入院期間が短く対応できないケースが多いため、入院時の評価等について薬剤師サマリ等を用いた連携によるポリファーマシー対策の実現に向けて今後検討する予定である。

(5) MMWINの利用促進

(1) ②に記載した Access アプリを利用した新たな運用方法を 12 月末までに行う。これらの方法論を確立した時点で、研修会等を利用し広報していく。また、参画する薬局を募集し、水平展開する予定である。

多職種、他機関との連携協議体等の活動状況

10月22日：多職種で構成される宮城県病院薬剤師会認定薬局等整備事業推進特別委員会を開催し、認定薬局認定要件に関するパブリックコメントについて情報共有した。また、実地研修案、がん及びポリファーマシー対策のモデルについて協議し、具体的な運用については、SubWGを立ち上げ課題抽出することになった。なお、適宜関連する専門家と相談し進める。

10月28日：認定要件検討SubWGを開催し、認定要件に関するパブリックコメントの動向を踏まえながら、今後薬務課から提案される認定要件について検討することとなった。なお、宮城県では、健康サポート薬局の認定数が伸び悩んでいるため、背景や他県の状況を確認し、課題を把握しながら認定要件について調整する。

事業の効果を評価できる指標・成果の収集状況

(2) 医療連携研修会の実施について

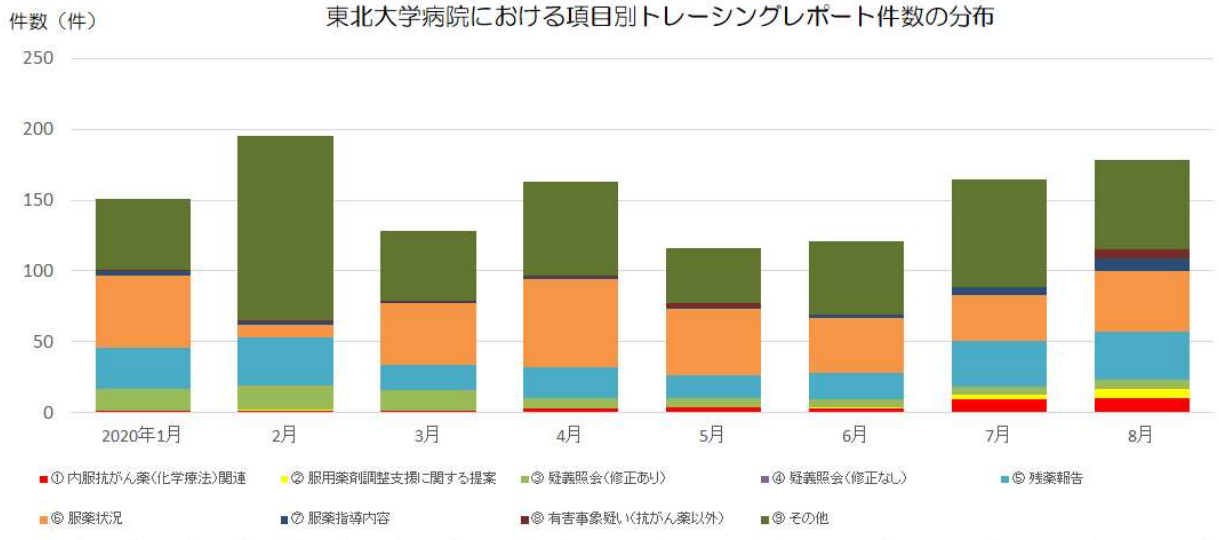
- ① 評価指標：参加者数とアンケート調査
- ② 状況：Covid-19による集合研修が困難であるため、Web研修会を企画する予定である。

(3) がん患者のフォローアップ体制の強化について

- ① 評価指標：トレーシングレポートの件数とアンケート調査
- ② 状況：東北大学病院におけるトレーシングレポート受付状況は以下のとおりである。今後、がん関係のレポートについて、調剤時及び服用継続中の報告に分類して、保険薬局数とトレーシングレポート数を評価する。また、12月中を目途にアンケート調査を実施する。

(4) ポリファーマシーへの対応について

- ① 評価指標：トレーシングレポートの件数とアンケート調査
- ② 状況：東北大学病院におけるトレーシングレポート受付状況は以下のとおりである。今後、服用薬剤調整支援や残薬調整に関するレポートについて、保険薬局数とトレーシングレポート数を評価する。また、12月中を目途にアンケート調査を実施する。



今年度事業の最終的な成果物

保険薬局や病院向けに、本事業に関する運用フローや好事例、書式やテンプレート、評価した結果をまとめた冊子を作成し、宮城県内の各施設へ配布する。

その他

事業全体スケジュール

以下の欄に事業全体のスケジュールを記載してください。

～令和2年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定薬局薬剤師向けの医療機関での実地研修の試行とブラッシュアップ ・ がん及びポリファーマシー対策に関するアンケート調査の実施 ・ 地域連携用ツールとしての Access アプリ開発と MMWIN 連携実施 ・ 医療連携研修会実施時の受講者及び受講証発行システムの開発
令和3年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定薬局薬剤師向けの医療機関での実地研修の試行とブラッシュアップ ・ 医療連携研修会実施とアンケート調査及び受講証発行 ・ がん及びポリファーマシー対策に関する好事例の収集
令和3年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定薬局薬剤師向けの医療機関での実地研修の最終プログラム案決定 ・ 医療連携研修会実施とアンケート調査及び受講証発行 ・ がん及びポリファーマシー対策に関するアンケート調査の実施 ・ がん及びポリファーマシー対策に関する好事例の収集
令和3年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例集の発行 <p>成果をとりまとめ、厚生労働省へ報告</p>

※当該中間報告は公表することを前提にしていますので、個人情報等を除き必要な範囲で記載ください。

※いただいた中間報告をもとに、今後の政策立案のため、事業の実施状況に関して視察をお願いすることがありますので、ご協力ください。

※事例の横展開を促す資料として公表・活用することを目的に、事業の最終報告では、事業内容と成果をパワーポイントスライド1枚にまとめた資料をご提出いただく予定ですので、ご承知おきください。